

11月3日、市は社会福祉の向上や市勢の発展と振興など長年にわたりさまざまな分野で活躍をされた方を市功労者・市表彰者として表彰しました。

市民会館で開かれた表彰式では、市功労者10人、市表彰者8人・3団体を小笠原市長が表彰し、被表彰者一人一人にこれまでの功労に対する感謝の言葉を掛けていました。その後、市功労者の米澤壽朗さん（よねざわじうろうさん）が被表彰者を代表し「この感銘を胸に刻み、新しい鋭気を持って研さんを重ね、市勢の発展と振興のため努力をしていきたい」と決意を述べました。

長年の功績を胸に刻み決意新たに
登別市功労者表彰・登別市表彰表彰式

11/3



▲天然足湯で温まる参加者や観光客たち

バスで巡る登別のまち
三市合同施設見学会

10月30日、市内で『三市合同施設見学会』（登別市・室蘭市・伊達市主催）を開催し三市から市民41人が参加しました。

この見学会は、隣接するまちをより知ることなどを目的に、三市が輪番で企画し開催しており、今年は登別市内にあるキウシト湿原、日本工学院北海道専門学校、登別温泉を見学。登別温泉では、低速電動バスオニスロに乗り、紅葉を楽しみながら地獄谷から天然足湯までを移動しました。

参加者からは「住んでいるとなかなか行く機会がない。今度は家族と行きたいと思った」などの声がありました。

10/30



▲小笠原市長から表彰状を受け取る被表彰者

自分に向けた進路を決めるきっかけに
登別青嶺高等学校の生徒による
インターンシップ

11月7日・8日、登別青嶺高等学校の生徒5人が市役所で就業体験をしました。

5人の生徒は、それぞれ総務グループ、秘書広報グループ、健康長寿グループに配属され、総務グループでは、ふるさと納税の返礼品の改善や新商品の企画・開発の課題に取り組んだほか、健康長寿グループでは高齢者の方と一緒に体操やお話をして触れ合いを体験するなど、初めてのことに緊張しながらも学校では学ぶことのできない市役所の仕事を肌で感じていました。

※この記事は、秘書広報グループに配属された生徒が取材、編集したものです。

11/7・8



▲ナンと共にカレーを頬張る児童

また食べたいね！
エゾシカ肉を使った学校給食を提供

10月31日、学校給食センターは、登別産エゾシカ肉を使った学校給食を市内小中学校に提供しました。

エゾシカ肉は、鉄分などの栄養が豊富なことで知られていますが食卓に上がることが少ない食材。今回は登別産一次産品普及促進事業を活用して地元産のエゾシカ肉130gを調達して子どもたちが食べやすいようにドライカレーとして提供しました。

この日訪れた幌別小学校では、児童たちがナンと共にカレーを喫食し「おいしいね」や「また食べたいね」などの声が多く聞かれました。

10/31



▲取り組む課題の説明を真剣に聞く生徒たち